

# 日本食糧新聞

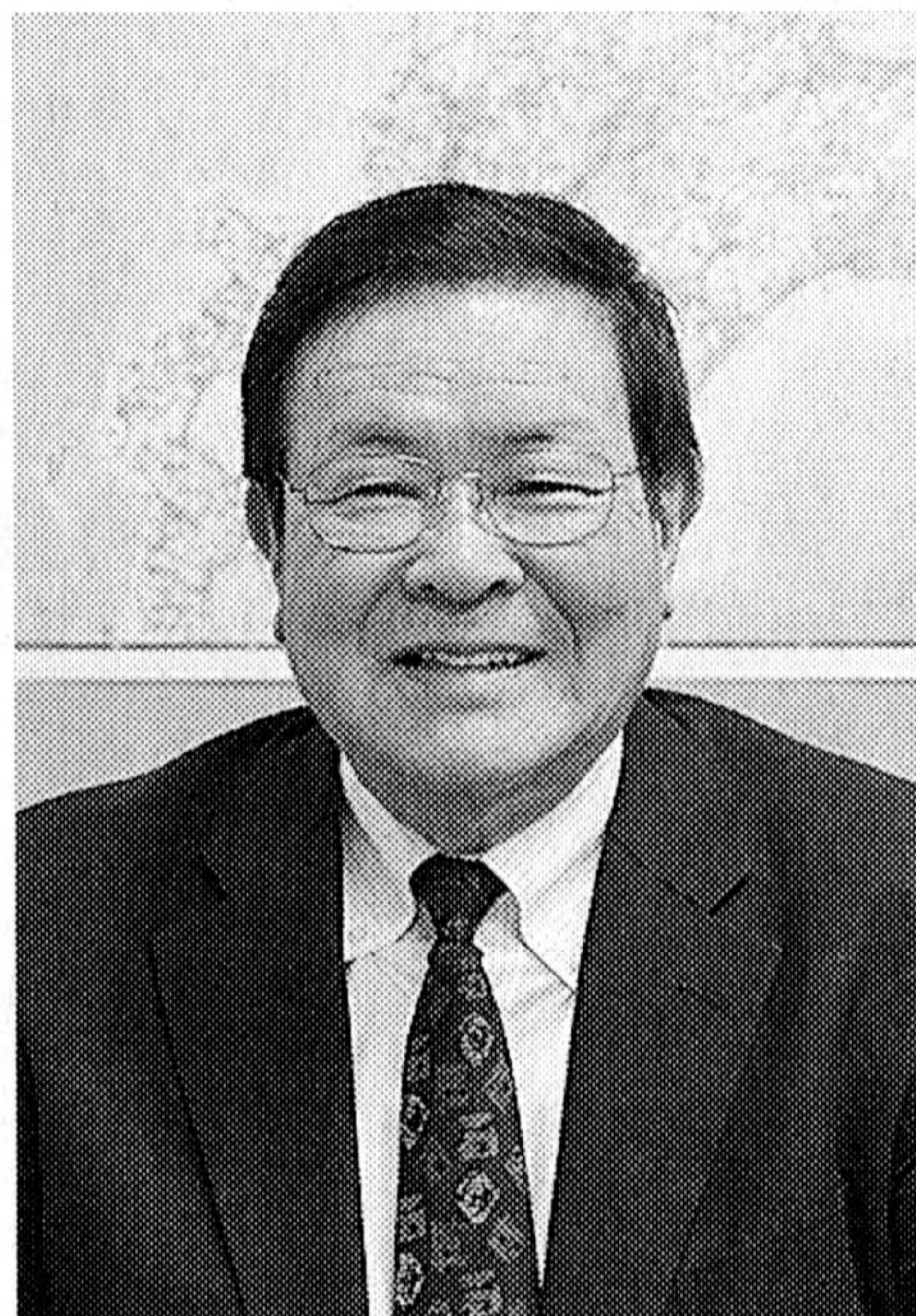
日本食糧新聞社  
東京都中央区八重洲1-9-9  
東京建物ビル(〒103-0028)

2018年5月9日

# 北海道を元気に!

郷土・北海道の活性化と発展に寄与したいとの目的で78年に発足した北海道ふるさと会連合会(東京都、高橋照美会長、東京旭川会)は、今年設立40年を迎えた。東京札幌会や東京旭川会、東京恵庭会など、東京や近郊に拠点を持つ90を超える道内各地のふるさと会で構成。相互の交流と親睦を図りながら北海道の魅力を発信すると同時に、郷土を元気にする取組みに一層力を入れている。(長島秀雄)

## 北海道ふるさと会連合会 金曾裕一 理事



と意欲的だ。札幌出身で札幌育ち。釧路や函館で暮らした時期もあるが、30年勤務した雪印食品時代に上京。その後、東京フードテクノ、寿高原食品、現在在籍するタイ最大の食品会社VITA FOOD

り。大企業であれば東京など消費地に出先を構えることもできるが、大多数は売り込みたい思いがあっても資金がなくせいぜいネット販売する程度しか手段がない。市場で十分戦える品質と競争力があるのに、物流や生産量の障壁、売り方、売り先がわからないなど、チャンス逃している」と指摘。そうした課題を少しでも解決できるようなアドバイスや提案をしていきたい考えだ。

郷土とふるさと会との連携も緊密で、例えば東京札幌会では札幌市が活動を強力に後押しする。会員メンバーの中から企業誘致に至ったケースも少なくないという。同氏は「これにより雇用が生まれ、産業活性化にもなる。温暖化が進みコムや果物などの主産地も北上するなど、北海道は将来的にも重要な食糧の供給基地。今後も北海道への誘致が広がるようPRしたい」と意欲を示す。今後も連合会メンバー間の活動や交流をより積極化したい考えだ。

## 埋もれる良質な道産品に光

同連合会は、総務、産直、事業、広報の4部会と事務局で組織され、サポートビルなどの企業も協賛。恒例の新年会には200人を超える参加者が集う中、高橋はるみ知事も参加してもらい、郷土の魅力を共有し今後の積極的な活動推進への連帯感を高めあっている。また、秋には期間中40万人が来場する一大イベント「北海道産直フェア」を東京

ODの日本総代理店SAMICなど食品界一筋にキャリアを積んできた。そうした経験を生かして故郷・北海道を元気にしたいとの熱い思いから「商品開発に関する技術やアイデアを提案しながら、長年培ってきた幅広い人脈、企業などに道内企業をつないでいきたい」と心情を明かす。

中でも九州の人たちが、北海道の産品を求めている。物流費が高く北海道の商品がほとんど出回っていないから、これを解決するには、例えば北海道で九州フェア、九州では北海道フェアを同時期に開催し、往復の物流を活用してコストを下げるなどの仕組み作り、物流会社とコラボしてより効率的な配送システムに組み込むことができれば問題を解決できるかもしれない。ふるさと会に参加

「各地のふるさと会も数多く出展し郷土の商品を紹介、道内を代表する農水産品が即売・試食され大好評。一般の消費者をはじめ、バイヤーも多数来場し、商談になるケースも少なくない。今年は10月5〜8日に開催する「予定だ。ブランド力の高い食や観光など、ポテンシャルと希望を秘めた北海道。郷土愛に満ちたメンバーが集う同連合会の活動の広がりを目指していきたい。」

産直フェア」を東京代々木で開催し各ふるさと会も出展。地元

「全国への紹介や消費地へビジネスをつなぐ役割を担いたい」

心で良質な食品ばかり。ふるさと会に参加

目していきたい。